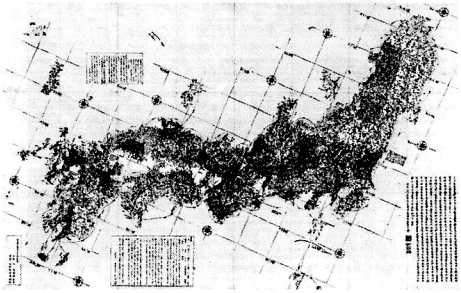
日本地図学会に長久保赤水図専門部会が設立された！

4月16日に開催された日本地図学会通常総会で、卜部勝彦常任委員長（日本大学）より提議された「長久保赤水図専門部会」が承認され、正式に設立された。

卜部さんは、２０１９年に第29回国際地図学会議（ＩＣＣ２０１９）が開催された折、高萩市歴史民俗資料館に展示された長久保赤水関連資料や、「赤水図」３倍拡大タペストリーなどを視察。国内外に長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）を周知、認識してもらう機会になった。

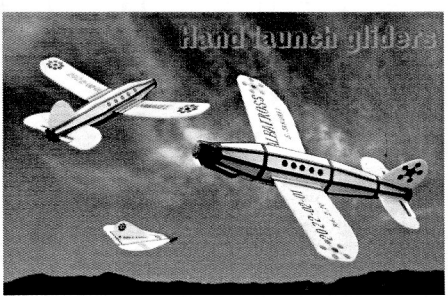


２０２０年９月30日には赤水図が国の重要文化財に指定され、それを受けて長久保赤水顕彰会では12月に「地理空間情報フォーラム」（Ｇ空間ＥＸＰＯ２０２０）に日本地図学会と共催して動画を制作、「長久保赤水と赤水図」に関する情報を発信した。「今回の日本地図学会〟長久保赤水図専門部会設立〟は３年超しの念願が叶った瞬間と言えます」と長久保赤水顕彰会会長の佐川春久さん。

赤水図は日本地図としては初めて経緯線が書かれている地図で、「伊能図」よりも42年も前に作られ、実用性が高かったことから江戸時代の庶民に広く流通した。

高萩出身の地理学者長久保赤水が正確な日本地図を作ろうと決意したのは30代半ば。資料や自身の実体験、旅人・知人からの話も参考に地名など多くの情報も盛り込み20年以上の歳月をかけて作成した。

作って楽しみ、飾って喜び、飛ばして感動…



これまで９千人から１万人の子供たちに出会っているだろうと話すのは桜井正一郎さん（日立市在住）。毎週日曜日はきららの里の「ハンドランチグライダーをつくろう」という教室で作り方や飛ばし方を教えている。今年で10年目、子供たちの「また来るからねー」の声に引かれふらふらと行っていますと笑う。保育園では人気の〟飛行機おじさん〟いまやあちこちでそれが愛称に。小学校や図書